

校内研究だより

町田市立金井小学校
2018年9月19日
研究推進部

みどりの教室の研究授業では、みなさんからたくさんのコメントをいただきました。支援学級と通常の学級の双方で取り入れたり共有できたりするものがあると、研究授業の意味もあると感じています。

講師の大場校長先生からは、「支援学級の授業を通常でどのように生かせるか。」をご指導いただきました。

子供の姿	教師の指導	その他・共有したいこと
<ul style="list-style-type: none"> ・ひみつ会議は、目的がはっきりしているとともに静かに楽しそうに取り組んでいた。(3) ・「せーの！」とお互いの呼吸を合わせることで相手意識が芽生えていた。(5) ・共有する言葉はなかなか出なかったが、表情やつぶやきは、共感を示していた。 ・二人で気持ちを合わせることができた達成感や友達の発表を聞いて自然と拍手する姿がありました。 ・子供一人一人が生き生きと活動していた。テンポよく進んでいた。 ・ペアで話し合うことにより自分の意見が言いやすくなる。(しかもグループに一人教員が入る) ・子供が分からないことや難しいことが分かり、ちゃんと伝えることができている。 ・身近な出来事をロールプレイにしていたので多様な答えが出てきて生きた言葉として学習できていた。(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた温かい雰囲気。(5) 安心感と瀧尾先生の表情や言葉かけ、子供の言葉を上手くつなげていた。 ・みどりの先生方のサポートと笑顔◎ ・さまざまな形での授業の参加の仕方。皆が受容している温かい雰囲気。瀧尾先生がいつもにこにこ穏やかで話を聞いてほしくなる。 ・褒める、認める、特性をつかむ、一人ずつの振り返り等、細かな声掛けで子供たちが安心して取り組んでいた。個を大切にしていた。(4) ・子供の思考のつまずきにすぐ気づきその場でクリアにしていく、反応に合わせて流れを変えられる、すごいなあ。(3) ・教師のキャラクターに合った展開、視覚支援、4コマの絵で振り返ることができてとても分かりやすかった。(3) ・子供の反応が想定外だった時のその後の対応や進め方が素晴らしかった。臨機応変の授業展開。 ・指示が的確で分かりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手も大切ですが、話し手も相手に分かるように伝えることは、自分のクラスでもやってみたい。 ・話し合いを「ひみつ会議」としてわくわく感につなげている。 ・先生方のコラボレーションがとてもよく、野本先生の演技力が素晴らしい。(2) ・ソーシャルスキルかるたの内容がよく、通常学級でも使える。(3) ・かるたは、コミュニケーションがうまくいくコツの確認、心をほぐすのにいい。 ・話す聞くスキルは、話すリズムができそう。 ・聞き方名人の表は、自分ができているか確認しやすい。 ・授業のテンポ・リズム感のある学習展開。遊ぶすきを作らないのは、体育でも同じ。 ・プラスの言葉かけ、ポジティブな気持ちで終えること。(2) ・児童の様子を見て分かってなさそうならプラン変更、確認。
<ul style="list-style-type: none"> ▽ペア学習の難しさ(学習レベルの差・交友関係など) ▽ロールプレイすると楽しそうだったので2人組でもやってみるといいのかもしれない。 ▽「かっこいい」の例は、少し難しかったのでは。どんな場面を教材にするかがとても大切だと思った。(欲しいものなど)(3) ▽考える場面の絵などひみつ会議の時にあるとよかったかも。 	<ul style="list-style-type: none"> ▽1～4年生が一緒に学習しているが、どこまで5W1Hが意識できているのか、つかむのが難しい。 ▽「なるほど～。いいね！」と先生が思わず言った時に一緒に言ってみたら使うタイミングが分かったかも。 ▽先生の話がやや長い。子供たちの活動がもっと見たかった。 ▽演技内容が大人向けに感じる→子どもの実態をもっと把握し、注目のさせ方を工夫します。 	<ul style="list-style-type: none"> ▽言葉の行き違いは、よく分かっていないように感じた。ああいう場合は、どう指導したらよいか。→低学年に男の人、犬を見て「かっこいい」という概念がなかった。車や電車、活動の様子などを「かっこいい」というのだろう。設定ミスだった。 ▽授業が早く終わり、時間が余ったときは？→授業に関連している前時までのクイズを急ぎで行ったが、いつでも5分～10分の楽しい活動をストックするように心がけている。

講師:東横谷小学校 大場寿子校長先生の指導講評より

特別支援学級の授業から通常の学級にスライドできることがあるのか。

支援級の授業では、自分のクラスにいる特別支援を要する子どもたちが、「どこでつまづいているのか。どのように授業を組み立てるとよいのか。」の視点でみるとよい。部分を取り入れてください。

1 対話の必然性

第1の場面で【主語がないと話が食い違うという設定】

「場面設定で劇化→絵や文字で視覚化→フィードバック」をしたが、情報量が多くないか。もっとシンプルに本質の焦点化ができないか。必然性がでてくる授業展開にする。

例：1「注目させる」お人形を見せる→感想を一言で言わせる。(かわいい・かわいくない)
2「主語を押さえる」→「かわいいって言ってる。Aさんに何を聞きたい?」「どこが?」
「〇〇がかわいい」→みんなで言わせる。〇〇がかわいいと言えば分かりやすいね。
3「理由を問う」→「次何を聞きたい?」「どうして?」→何でだと思う?ペアトーク
どうして?と聞きたくなるから、理由を言いたくなる→必然性が出てくる。

2 対話させてどこをほめるか

理由を問わせる場面を作り、対話させたとき、内容だけでなく、態度・表現など技能面もほめていくと対話することがどんどん楽しくなる。

例：2人の対話場面を全体の前でも取り出して、再現してもらう。内容以外でもほめる。
「うなずきながら聞いていたよね」「目を見ていたね」「いいね。の言葉がよかったよね」
例：高学年なら、「今の2人の対話でどこが良かったと思う?」と更にペアトークさせる。

3 対話を長く続かせる

先生がモデルにならないと話す力・聞く力は育たない。中学年で是非やっていただきたいこと。国語的にも日常的にも使えるようになって欲しい。

例：「続きを考えてみよう」
A「おにごっこしよう」
B「ボール遊びがいいな」
C「じゃ、今回はどうしようか」
話し合いの場面でCさんが折り合いをつけるような会話を考えてロールプレイする。
モデルを示し→学習→実際の場面で使えるようになることを目指す。
例：「でも・・・」「だって・・・」のように否定的な考えも出てくると会話が続きにくい
が、変換する練習も、否定も受け入れる練習も必要。教師がパターンをもっているかが重要。

4 国語科として

読む・聞く・話す・書くの4領域を授業の中に入れてよい。また支援級の子供だからこそ個別に応じた展開と支援、ねらいを指導案に入れるとよい。

具体的な指導法や授業を見る視点をご指導いただきました。ありがとうございました。